

# JAITI 58

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL [jaiti@janis.or.jp](mailto:jaiti@janis.or.jp)

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団  
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5  
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

## 今日のジャイチ

元号が平成から令和へと引き継がれ、西暦では2020年を迎えました。ネパールの歴では2077年とおよそ57年の紀元の差があり、ネパールの歴史の奥深さを感じさせますが、ネパールの新年は4月14日というところで、日本の感覚からすると季節感に戸惑いませす。もともと、最近では気候変動の影響なのか季節ごよみが心配ですが。

カトマンズ周辺では、これまでのような長時間に亘る計画停電は解消されてきており、高層ビル建築や道路事情も立体交差が見られるなど近代都市へと向かっています。

隣接するインドの首都では、車の排ガスと工場の煙に野焼きが加わって近年最悪レベルのスモッグに覆われているといいますが、カトマンズでも同様に車の排ガスと砂埃によりヒマラヤの山並みが見えづらくなるのが懸念されます。発展の副産物にならないことを願います。



▲レカリ・バシファント学校全景：学校の上を走る道路の脇にはビューポイントが設けられていて、一目で学校が俯瞰できるようになっています。矢印の場所が寮建設予定地

### ◆学校の状況

◇レカリ・バシファント学校の生徒数は、一時の500人ほどから368人（現在）と、このところ減少傾向が見られます。

ネパール大地震災害から4年が経過しましたが、避難所の閉鎖などによって他地区への移転や農村部の傾向である若い世帯の都市部への流出が進みつつあることなどが要因のようです。

当学校は、周辺に学校が少ないこともあってか、長時間かけて通学をしなければならぬ生徒も大勢おり、最近では通学に便利な町場で寄宿生活をして学ぶことを選ぶ者も出てきています。

このような状況を改善していくためにジャイチネパール、学校関係者で学生寮の建設に向け政府に要望をしましたが、ネパール政府にはそのような予算の規定がないことから支援機関を模索していました。この度、ネパール日本大使館がこの申し入れに親切に対応していただけることになり、改善に向けて前進することになりました。（2面参照）

政府への移管以後も政府予算や様々な支援によって、より良い学校づくりが



基礎工事がはじまった学生寮建設用地 バシファント校



進められていますが、これまで十分に手の入らなかつた学校敷地内の支障木の除去や景観に配慮した環境整備もジャイチの活動として、協力していくことにしています。

◇カカニ・ブライター学校では、幼稚クラスの児童が多くなり、教室が足りない状況になってきました。当初、幼稚園2年小学校5年生までの基礎教育でス

ターゲットしたブライター学校ですが、その後、教育制度の改革や教育ニーズに合わせて支援者のご協力をいただきながら、既存の施設の活用も図りつつ、10年生まで学ぶことのできる学校へと教室の確保を逐次進めてきたところですが、幼児教育の高まりもあり、現在のスペースでの対応が難しくなってきました。

現在、2教室が確保できるようなバシファント学校と同様に日本大使館に要望をしながら、建設場所の確認や土地利用について検討を進めています。

経営的には、依然として厳しい状態が続いています。引き続き皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



▶教室の建設を予定している所  
上がブライター学校の校舎

# ジャイチネパールから

## バシファント学校に ホステル建設

ネパールの学校の紹介をするとき、バシファント学校の生徒たちは片道2時間以上もかけて歩いて通学してくるという話をよくします。

実際に、学校へ来るまでの道のりは、少しでも短い距離を探して歩きたいため、ほとんどが急な山の斜面を上り下りする状態です。しかも、ゴムぞうり・サンダル履きといった格好で、元氣よく登校してくる姿には感心します。



▲急な山道を長時間かけて学校に通うバシファント学校の生徒たち

然生徒たちにとって、疲労をもたらすばかりでなく、自宅での勉強や宿題にあって時間が確保できなくなり

ます。また、日が短くなる冬場は家に帰るまでに暗くなつてしまい、獣からの危険や、特に男子生徒より女子生徒にとつては強姦事件も頻繁に起きる深刻な問題が起きています。

こうした問題に対処するため、学校では学生寮の建設を望んでいました。この度、在ネパール日本大使館の計らいにより「草の根プロジェクト」(GGP)の無償資金協力の助成を受けることができることになり、10月1日にカトマンズの日本大使館において調印



▶ネパール日本大使館で行われた調印式



▶毎朝10時に登校するとグラウンドで朝礼が行われる

式が行われました。学生寮が建設されると、

登校時間の厳守、学習時間の確保、中途退学生徒の減少、遠隔地からの生徒の受け入れによる生徒数の増加などが期待でき、最終的には、学校の教育の質の向上につながります。

日本大使館は、このプロジェクトが日本とネパールの人々の友好関係の強化にも貢献することを期待しています。

(ビム・ラル・グルン)

## カカニでハーフ マラソン大会

カカニ峠を舞台に、11月16日外国人ランナーを含む150人ほどが参加してハーフマラソン大会が開催されました。

2017年から始まったこの大会は、ネパールで公共的な事業にかかわっているNGO「インパクトネパール」が主催して、カカニ峠からカトマンズの北側グンゼパンジャラム峠で折り返しの21キロメートルを走るコースで、カカニブライター学校からは、教師7人と5年生から10年生までの20人が参加し、全員が完走しました。

大会の結果、8年生のマノジ・ラマ君が見事6位に



▶ネパール国旗を持っている生徒がマノジラマ君

入賞しました。

参加者や関係者からは、カカニブライター学校の誇りであり、トレーニングを積み重ね、もつとよいランナーになると褒め称えましました。

この大会を機会にスポーツへの関心が高まれば幸いです。

(ビム・ラル・グルン)

## 楽しいピクニック

カカニブライター学校の恒例行事でもあるピクニックを、今年も、カトマンズに隣接する街バタンから南に位置するゴダワリにある森林公園「ゴダワリポタニカルガーデン」で行いました。

生徒や先生、保護者も一緒に105人が大型バスに分乗して目的地を目指しました。季節的には、これから冬に向かう寒い時期でしたが、森の中を元気に駆け回ったり、現地で作った食事をみんなで食べて楽しい一日を過ごしました。

生徒たちにとって、普段なかなか遠方へ出かけることは少ないため、こうした機会は見聞を広げること



▶みんなでダルバートを食べて



▶先生保護者の手作りの食事を順番に盛り付けてもらう生徒たち

もなり、また、先生や大勢の友達とのコミュニケーションも深まったのではないかと思います。

学校行事のほかにも、秋はダサインやティハルなどは大きなお祭りが行われ学校も休みになります。

生徒たちはそれぞれの地域で伝統的な民族舞踊などを受け継いで祭を盛り上げています。



# ご協力有難うございました

この六ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

2019年6月21日～2019年12月27日迄 順不同敬称略

## ◆人的協力

〈東京都〉

滝和美

〈長野県〉

白井千鶴子、小澤仁乃、柿島明子、菊池健介、株式会社北澤土建、有限会社佐藤新聞店、田村由紀子、根岸厚次・真貴子、松久よし子、宮下篤グループ

〈愛知県〉

小菌四男

〈岡山県〉

荒谷友里恵

〈海外〉

ネパール ホテルサンセットビュール・アルジュン・シン／絨子・トラチャン

◆寄附金

〈北海道〉

栗林成光、相馬佐知子、水口馨

〈岩手県〉

紅茶の店しゅん松本沙弓

〈福島県〉

岡村健

〈茨城県〉

伊藤甫、魚津慶子、折本拓郎、長谷川秀雄、藤井英雄

〈栃木県〉

森聖哉

〈群馬県〉

斎藤孝夫、塚越雅幸、堀越利通

〈埼玉県〉

太田悦男、小野美津男、斉藤節子、嶋田信子、本庄東高等学校

〈千葉県〉

高橋節子、武藤貴子、吉村芳江

〈東京都〉

株式会社ウエック・トレック稲村道子、石田昭夫、大田原房子、小川昌子、小野寺えり子、尾身恭子、鎌倉恵子、鎌田はなよ、河野節子、黒田秀基、駒場智子、須藤節子、菅田安男、鈴木牧子、滝和美・三希子、田山豊實、中村暢子、西岡巖、野村明賢、堀妙子、正田英子、松田重箕、松島長久、山縣敏子

〈神奈川県〉

小林みよ子、島田正義、十河三郎、丸山進治・佳子

〈長野県〉

株式会社アオヤギ印刷、小山田秀士、金子元昭、菊池和美、丸山敏和、若山七美

〈新潟県〉

健介、北澤純一、久保田寛人、黒沢勇人、高本洋子、小林淳、小林展子、小林康、小林武彦、斉藤一美、齊藤敏、坂井永一、澤山啓司、国際交流フェスティバルin佐久バザー、清水きよ子、司法書士竹内克彦、株式会社東信ジャーナル社、中澤知史、中島英男、長門郵便局、中村彰、株式会社長門牧場代表取締役竹内邦義、名倉慶子、箱山年子、羽田文子、牧幸男、増田幸一、松久よし子、丸山幸雄、柳澤利文、横関絢子、ジャイチ事務所寄附金箱

〈静岡県〉

山梨加代子

〈愛知県〉

伊藤正裕、尾上昇、神田孝子、小菌四男

〈滋賀県〉

岡田千尋、松延宏昭

〈兵庫県〉

小野道彦、新海泉

〈和歌山県〉

中前孝啓

〈福岡県〉

坂本ふみ

〈鹿児島県〉

保拓夫、西重正博

〈ネパールへ直接〉

荒谷友里恵、小菌四男、滝和美、丸山敏和、若山七美

## ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。

皆様方からのご寄附に対し、所得税法・法人税法上の優遇措置を受けることができます。以下に説明致しますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

### ジャイチの基本的財源として

皆様よりいただいた寄附金を、ジャイチの公益活動を維持・継続していくための財源として、受け入れるものです。寄附金の用途・内容については、ホームページ記載の決算書等により、皆様にお知らせ致します。

その中より余剰資金が発生した場合は、今までどおり基金として繰り入れいたします。基金は、ジャイチの財源を安定させ、ジャイチの活動をよりいっそう強固な活動につなげることが出来ます。

### 所得税法、法人税法の優遇措置

公益財団法人は、すべて税制上の特定公益増進法人となり、寄附していただいた金額は、下記の寄附金優遇措置の対象となります。

- ①所得控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額が総所得金額等、退職、所得金額又は山林所得金額より控除できます。
- ②税額控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額の40%が所得税額から控除されます。

(例 10,000円の寄附の場合 所得税が3,200円戻ります。)

上記優遇措置を受けるには基本、確定申告が必要です。

(税法の改正等がありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。)

### 郵便振替・銀行振込での募金

■お振込先

◎郵便振替 00510-4-65434

◎銀行振込 八十二銀行 丸子支店 (普)420577

[口座名] 公益財団法人 日本農業研修場協力団

◆ 寄付品

〈北海道〉

菊池隆司・隆子

〈岩手県〉

佐藤朋子、松本沙弓

〈福島県〉

岡村健

〈埼玉県〉

嶋田信子、山田まゆみ

〈群馬県〉

島田寛治、株式会社高崎へ

アリング商会

〈千葉県〉

吉村芳江

〈東京都〉

小笠原悦子、川口律子、佐

瀬満亀、滝和美、田山豊實、

ネパールの子ども達に文具

松島長久、安原二郎、山縣敏子

〈神奈川県〉  
小林みよ子、堀内フサ子、丸山佳子

〈長野県〉  
あーすの会、柿島明子、加藤美幸、菊池健介・道子、清住栄子、久保田寛人、五味あつ美、斎藤一美、斎藤敏、滝沢英子、有限会社大和印刷、田村由紀子、長和町大門支所、原真知子、舟木公栄、松久よし子、宮下篤

〈愛知県〉  
後藤多恵子・渡部希実、滝本美恵子

〈兵庫県〉  
丸尾信



「兄弟の戯れ」 絵 マン

宮原巍さん 逝去される

ジャイチの事務所にほど近い青木村の出身ということもあって身近な存在でいた宮原巍さんが、昨年11月24日にネパールの病院で亡くなられました。85歳でした。

ネパールの発展に人生の大半を捧げられた宮原さんは、若くしてネパールに渡り、観光はネパール発展のカギであるとの信念で、エベレストを間近に望むヒマラヤの地にエベレスト

ビューホテルを建設し、その後パタンにも、そして、数年前からはポカラの風景を象徴するアンナプルナ山系のマチャプチャレが眼前に迫るサランコットにアンナプルナ・ビューホテルの建設を進めていました。

ジャイチツアーでサランコットを訪れた折にも、だんだんと出来上がっていくホテルを見るのが楽しみでした。中でも、生まれ育った地にある上田城の石垣を再現したような石積みこの

だわりは、望郷の念を感じさせてくれるものでした。こうしたホテルの建設ばかりでなく、宮原さんは、ネパールに欠けているインフラの整備にも情熱をかけていました。

鉄道・トンネル・ケーブルカーなどによる交通網の発達をはじめ、カトマンズに集中する人口を軽減するためにチトワンへ首都を遷都するといった国土開発計画を示してネパールの変革を願っていましたが、道半ばとなりました。

宮原さんの夢に関心を持ち新しい未来のネパールの国造りを実現してくれるネパールの若者が増えることを願います。

地元のネパールタイムズ紙には「父はエベレストの近くでの火葬を望んでいました。心はいつもヒマラヤなのです」と、娘さんのコメントが紹介されています。

ご冥福をお祈りいたします。



▲在りし日の宮原巍さん(左) アルジュン・ジャイチネパール社長とポカラにて



▲建設当初のアンナプルナビューホテル。奥にそびえる山がマチャプチャレ



▲城の石垣を思わせる見事な石積み

□宮原さんの主な書籍  
☆ヒマラヤの灯

☆ヒマラヤにホテルを三つ

ホテル・エベレストビューを建てる  
ネパールの開発ビジョンを語る



# ジャイチの活動に参加して

今回のジャイチツアーでは、学校訪問の時間を使って手洗いによる衛生について生徒たちに指導していただきました。

## 手洗いの大切さを

日常的な手洗いによる手指の清潔保持は、感染予防対策として有効です。

日本においては、幼少時より手洗いの重要性及び、必要性を家庭や学校で学んでおり、文部科学省においても、小学校学習指導要領保健体育保健分野の中に、体の清潔の保持の必要性、病気の予防について記載して、正しい手洗いの方法を小学生に学習させています。

しかしながら、このような教育が十分にされている国は、まだまだ少ないのが現状です。

今回、ジャイチのボランティア活動に参加させていただき、ネパールで手指衛生についての研究をさせていただくことになりました。

ジャイチが設立したカカニ・ブライダー学校とレカリ・バシユパント学校を訪

問し、手指衛生教育を行ないました。

両学校では、生徒各20名ずつに、まず紙芝居を見てもらい、手指衛生の必要性について理解してもらうようにしました。

その後、まず手洗いをしない手指の状況を持参した簡易の検査キットで調べ、検査後、手洗い学習用の動画を見てもらってから動画のように手洗いをしてもらい、再度手指の衛生状況を調べました。



▶手指の汚れを検査キットで

手洗い前後の手指の状況を比べると、全ての生徒において手洗い後の方が、手洗い前と比較し明らかに汚れが減少していました。

このことから、正しい手洗いをすることが手指の衛生保持に有用であることが

◀生徒たちに正しい手洗いのやり方を動画で見せよう



言えました。

また、生徒たちに言葉が十分に伝えられない環境であるため、わかりやすい動画を見てもらう方法にしましたが、今回の結果から、言葉が十分に伝わらない環境であっても、学習媒体に視覚的学習を用いることで十分な学習効果が得られることが分かりました。

さらに今回使用した動画は、日本の医療者向けに作られた動画でしたが、視覚的な学習は国、年齢を問わず効果が得られることが明らかにになりました。

今回、ネパールで衛生教育を実施したことで、子どもたちの衛生への意識の向上を図ることができたのではないかと考えます。

日本の衛生概念をすべて押し付けるのは適切ではないかもしれませんが、正しい知識を持って生活していくことは大切なことであり、正しい知識を持つて生活していくことで、彼らの人生をより良いものにして欲しいと思います。

ネパールの学校を訪問させていただき、たくさんの人と出会い、たくさんの方の笑顔に触れ、素晴らしい経験ができました。こうした衛生教育をさせてもらったことを通して、私自身がいたどき、大変有意義な時間を過ごすことができました。機会があればぜひともまたジャイチの活動に参加させていただきたいと思えます。

荒谷様は、現在、岡山県内の川崎医療福祉大学博士後期課程に在籍しています。



▶検査を行う荒谷さん

(高松市 荒谷友里恵)

荒谷様は、現在、岡山県内の川崎医療福祉大学博士後期課程に在籍しています。

## カカニのイチゴに新しい風が

イチゴの産地として名をなしたカカニ地区に、また、新たな動きが見えています。

ジャイチがイチゴ栽培に着目し周辺農家に普及してからおよそ25年の歳月が経過していますが、栽培者の高齢化や世代交代などで一時よりは栽培者の減少が見られるようになってきました。

それでも農家にとっては主要作物として脈々と栽培が続けられています。

こうしたカカニ地区の農家がこれまで培ってきた栽培技術を下支えとして、資金の提供や資材の貸与方式を取り入れて、農家の経営意欲を引き出し、イチゴ栽培を活性化させる取り組み



▶収穫期を迎え手入れに精を出す若い夫婦

◀イチゴ畑が多くみられるようになってきたカカニ周辺



が始まってきています。

特に女性の自立を支援するために活動しているネパールのNGOの低利融資を受けた女性農民も大勢いるとのことで、この融資をもとにしてイチゴ栽培がまた広がりつつあります。

また、このNGOでは、イチゴばかりでなくヤギや水牛などの家畜を女性農民が飼うための資金貸付も行っているようです。

これまでも紹介させていただいているピニールハウスによる栽培の普及も含め、カカニのイチゴのブランド化が図られていきます。



▲選果とパック詰めも(Our Farms 株様にて)

### ネパールで南アジア 競技大会行われる

昨年の12月1日から10日間の日程で第13回南アジア競技大会がネパール国内で開催されました。

開催国としてのネパールをはじめ、インド・スリランカ・パキスタン・ Bangladesh・モルディブ・ブータンの7カ国がこの大会に参加して、26種目の競技がカトマンズ、ポカラ、ジャナクプールのさまざまな都市で行なわれました。

ネパールはメインゲームの男子サッカートーナメント決勝戦でブータンを2-1で破り金メダルを獲得しました。

また、ネパール出身の17歳の少女ガウリカシンさんは水泳競技で4個の金メダル



▶南アジアの7カ国が参加した  
競技大会

と12個のメダルを獲得する大活躍を見せました。しかし、女子サッカーは残念ながら宿敵インドに最終戦で2-0で敗れてしまいました。

大会の結果、ネパールは

51個の金メダルを獲得して、インドの174個に次ぐ2位となり、大成功のうちには幕が閉じられました。

閉会式で大会旗はパキスタンに引き渡され、3年後にパキスタンで開催されることとなります。



▶ネパールチームの堂々とした  
入場行進



▲花火でブッダの顔が夜空に  
描かれ会場を盛り上げる

## 事務局だより

### ▼ジャイチ

- 7月・機関紙57号発送
- 9月・国際交流フェスティバルin佐久へ参加
- 11月・常務理事ネパールへ総合指導
  - ・ジャイチツアー実施
  - ・内閣府公益認定法に基づく定期立入り検査
- 12月・理事会開催令和元年度上半期事業報告等
  - ・機関紙58号企画・編集

バザーを  
ありがとうございました。

国際交流フェスティバル in 佐久

### ▼ジャイチネパール

- 7月・バシファント学校、ブライター学校夏休み入り
- 8月・カカニでATJの堀田氏グループがイチゴの視察
  - ・大雨で道路不通のため夏休み延長
- 9月・ブライター学校でスピーチコンペ
  - ・レカリバシファント学校の各教室に飲料水のフィルターを備え付け
- 10月・デザインとティハール祭休暇
  - ・ネパール大使館でバシファント学校の生徒寮建設支援の調印式に出席
- 11月・カカニのハーフマラソンに参加
- 12月・ブライター学校ゴダワリ森林公園へピクニック 保護者を含めて105人参加

## 第二十三回 JAITIツアー 参加者募集

お知らせ

### ◆日程

11月初旬7泊9日の予定

### ◆旅行代金

お一人様 29万円の予定

交通費(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食事代を含みます。但し、日本国内の交通費と海外旅行保険は別途になります。

### ◆最小催行人員 10名

### ◆企画 ジャイチ

### ◆主催 ㈱西遊旅行

書き損じハガキを送って下さい。  
未使用も歓迎。

年賀ハガキの書き損じ・余りも歓迎

(古いものもOKです)

(切手に交換し、通信費に役立させていただきます。)

今回は43,049円の切手と交換できました。



## お願い

ネパールへのジャイチの荷物(主に生徒用の文房具など)運搬のお手伝いをしてくださる方、是非ご連絡ください。

## 物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共にこれまでのご支援に感謝申し上げます。

竹内袈婆雄様 長野県長和町 一九九一年一月

石 和義様 栃木県那須塩原市 一九九一年八月

大洞東平様 栃木県那須町 一九九二年二月

北澤純一様 長野県上田市 一九九一年九月

青木 洋様 千葉県柏市 一九九一年九月

綿谷芳雄様 栃木県那須塩原市 一九九一年九月

藤山正年様 千葉県市原市 一九九一年九月

倉本器征様 神奈川県横浜 一九九一年十一月

宮原 颯様 ネパール 一九九一年十一月

小林豊山様 長野県長和町 一九九一年十二月

## 集めています

収集品	使 途	
バザー用品	未使用のものなら何でも	ネパールの学校の運営費
文房具	定規・鉛筆など	学校生徒用
毛 糸	帽子を編みます	レカリバシファント学校1・2年生用
	編みぐるみ・タワシなどのバザー用品をつくります	
日本手拭タオル	未使用のもの	ネパールの学校用ほか
使用済切手	換金します(未使用切手も歓迎)	ネパールの学校の運営費(切手の周りを5ミリ残してください)
	使用済切手につきましては、寄付品協力欄にお名前を掲載しまして、謝意を表します。	

## 編集後記

バシファント学校の校庭に、学校建設当初に残した桜の木があり今は大木となつて生徒たちを見守っています。

日本ではたいていの桜は春の風物詩ですが、ネパールの桜は秋に紅色の見事な花を咲かせるのです。ところが、昨年の日本では秋になつて桜の花の話題で持ちきりになり「三日見ぬまの桜」がしばらく咲き続けましたがそのうちに、散らせたのか、散つたのか、どうなのでしょう。

桜の木の下で学ぶネパールの子どもたちには、誠実で時には潔さを育んで欲しいと願っています。